

- 平成18年に「地震調査研究推進本部 10年の資料集」を発行したが、それ以降の最近約10年間のあゆみをまとめた。
- 「年史」ではなく「資料集」として位置づけたが、書き下ろしの文章を多数盛り込んだ。

目次

はじめに
発刊に寄せて

第1章 地震調査研究推進本部の10年の活動
～平成18年から27年にかけて～

地震本部の最近10年間の活動を概観するとともに、各委員会の活動を記述。

第2章 地震活動の評価

地震調査委員会の成果や検討状況を記述。
とくに全国地震動予測地図については特長や課題等を詳述。

第3章 東日本大震災を踏まえて

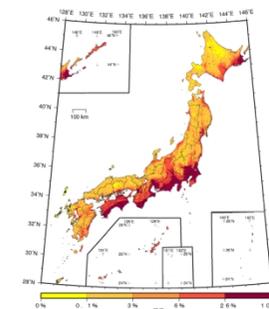
主要委員による座談会や、関係者10名からの寄稿。

資料編Ⅰ 10年間の地震活動

資料編Ⅱ 会議開催実績等

地震調査研究推進本部
20年の資料集

3. 全国地震動予測地図



「確率的地震動予測地図」では、固有地震（同じような場所で同じような規模で繰り返し発生する同じような性質の地震）だけでなく、事前に得られる情報が不確実な地震についても、地震の規模と発生頻度の間の経験的な関係式（グーテンベルク・リヒターの式）を用いて考慮されています。よって、その地域に影響を及ぼす全ての地震による影響を考慮することができますが、ある特定の地震が発生した場合の揺れの強さをこの図から知ることはできません。

他方、「震源断層を特定した地震動予測地図」は、ある特定の地震が発生した際の周辺の揺れの強さを算出することができますが、その可能性の高さについての情報は得られません。また、事前に地震を起こす断層や断層域が特定されていることが前提ですが、現実には、必ずしも事前に想定できない地震も多く発生しています。

このように、それぞれの地図の特徴が大きく異なるため、適切に地震動ハザードを把握するためには、両方の地図を用いることによって情報を補完することが必要です。

20年の資料集 第3章について

○座談会では、地震本部の20年間を振り返る中で、たとえば以下の話題が挙げられた。

- ・地震本部という組織が出来て初めて実現したこと
- ・内閣府等の関係する組織との連携と、その中での地震本部の役割
- ・地震本部の成果の普及について
地方の委員の役割、南海トラフ地震が起きた場合 等
- ・地震本部の目指すべき方向
地震本部の国際化、防災のための基礎研究の強化 等

○寄稿については、年齢、所属、地震本部への関わり方など、様々な立場の方に執筆いただいた。

0. 座談会	阿部勝征、河田恵昭、平田直、本藏義守、長谷川昭
1. 地震学の知見の一般社会への伝達と還元	金森博雄
2. 東北地方太平洋沖地震前後の日本地震学会の取組	加藤照之
3. 地震調査研究推進本部は覚悟を持とう	小泉尚嗣
4. 最新の科学の知見で防災を進化させる	国崎信江
5. 緊急地震速報の過去・現在・未来	東田進也
6. 海上保安庁の海底地殻変動観測	石川直史
7. 地震調査研究推進本部地震調査委員会の抱える 課題と今後の展望	宮澤理稔
8. 間違った学説に頼るな	ロバート・ゲラー
9. 地震調査研究推進の20年に寄せて	岩田孝仁
10. 20年間を振り返って	中島正愛